

を固く、しばつて血行を止めることがありますがこれは其部分が壊死することがありますから、注意して醫師の教に従ふのです。又毒虫例へは蜂、蚊、毛虫、イラ虫などにさされた時はアンモニヤ水を塗るのが尤も宜しいとされています。ハブ草なども存外毒虫に功があります。アンモニヤ水を塗つた後はホーサン水で冷すのであります。狂犬に咬まれたる時は直に傷口を洗ひて血をしぼり出して縛帯をなし、直に醫の診察を受くべきでございます。

(つづく)

子供を背負ふことにつきて

雨森 釧子

子供が生れました時は身体の諸機關が整はないものでありますから、目はありましても見えませ

ん、耳が有りなから聞えません、勿論手足の動きも自身にては十分自由に出來ません。只泣き呼び手足を動かし乳汁を吸ふばかりで御座いますから、總べて大人がよく衛生を考へて世話をしなればなりません。

赤兒と云ふものは、一日の中に眠りて居ります時間が長いものですから、大抵寢床に臥させますが、目を醒した時には、床の中に許りおきますも可愛想で御座いますから、時々抱き上げてやります、始は斯ういふ様に、寝かすか抱くかの二つで御座ませけれども、日數が段々たちますと、子供の身体の諸機關が發育して參りまして、前に見えなかつた目が見え、聞えなかつた耳も聞えて參りますし、骨組もしつかりして參ります、そんなりますすと知恵の方も進んで參りまして、自分の苦

痛を訴ふることが出来る様になりて参ります。睡眠時間は漸次短くなりまして、只一人寢床の中のみ居ることか出来なくなつて参りますから、種々の事情の爲め子守に托すか下女或は母親か背負ふといふ事を致します。

其背負ふと申します事は今申した通り、子供の身体の諸機關がいくらか發達致しました後で御座いますと、左程の害は御座いますまいと思ひますけれども、注意を致しませぬと不具となし又は虚弱なる身体となす事があります、それは如何なることかと申しますと、極少さい時には襦褌にて足を包みます、そして足を伸ばして其上に帯をかけておぶひます、足を巻かれたる上に帯にてしぼられますから、足の發育を妨げます、又所によりては襦褌を當てたる儘足を開かしめ、背負ふ所もあ

ります、それが爲めに全く足か曲りまして、實に見惡き形となります、是れ等は全く生れつきでもない不具に致したので御座います。

今一は寒い國に参りますと、大人の肌面に直に子供を負ふ所があります。是は大人の身体より常に發散する所の蒸發氣を受けまして、衛生上宜しくないと思ひます、抱き寢の害といふ事を申します、矢張是等もそれと同様の事と思ひます。

右に申しました許りではなく、すべて子供を脊負ふと申すことは、脊負はるゝ子供も腹部を壓し、手足の自由を妨げられて、發育の害となる許りではなく、脊負ふ人も自然自身を前方に屈しますから、勢ひ身体の爲に宜しくはないと思ひます。殊に未だ赤兒の頸もすわらぬものを脊負ふは最危險であると思ひます。

或日或町を通りましたに、二十歳の若き母親らしき人日數のまだ二十日にも足らぬかと思はる赤兒を、帯のみで脊負ひましたが、其子供はねむつて居りました、夫故に母親がかいめは、赤兒の頸は前に出で、母親が仰げば赤兒はまた仰ぎて後の方に向く、實に赤兒の苦はいかばかりなりしならんと思つて居る内、とう／＼泣き出しましたので、母はしきりに泣きを静め様として、其子をゆすぶつて居るのを見ました。慥に其子は負はれたる爲めに苦痛を感じて眠ることが出来なかつたでありませう。却て床中に眠らせました方が、母親も子供も苦みがなかつたであつたらうと思ひます。

此脊負ふと申す事は日本許りではなく、外國にもある様で御座いますか、つまり衛生上からよく

三十四

考へなければならぬ事と思ひます。殊に日本人は身体が小さいとか、足か短いとか申しますのも、全く小さい時に脊負ふといふ事も夫等の原因になつて居る事と思ひますから、子供を持たれた方は一層氣を付けなければなりません。

今昔いろは料理

(う)

梅調のこしらへ方 石井泰次郎

薯蕷を、山葵をろし金にてすりおろして、梅干をたねを取去りて、肉のみを、馬尾節にて裏ごし、て、いもと一所に楢盆へ入れて、よくすり合せて、鯛の身を丸ろして、切て楢盆にてすりたる、すり身を合せて、よくすりて加減をなして、醤油、だしを入れ、みりん煮切をも入れて、味をつけ、金